

特集

財政学研究会 2010年冬季シンポジウム 基調講演
「政治主導はなぜ難しいのか：政権交代と統治構造改革」

飯 尾 潤 (政策研究大学院大学)

司会 (植田) :

本日は「政治主導と公共政策」と題して財政学研究会恒例の冬季シンポジウムを開催します。2009年夏の政権交代によって政治主導による公共政策の転換と進展が期待されておりました。部分的にはそうした面もありますが、最近ではむしろ政治主導の難しさが見えてきております。そこで基調講演に政策研究大学院大学の飯尾潤先生をお招きしました。飯尾潤先生は『日本の統治構造』という書物を著し、きわめて鋭く日本の統治構造の問題点や課題を解明しておられます。

3人のパネリストの皆さんです。早稲田大学の坪郷先生は、ドイツの環境政策に関しては日本で最も詳しい方と言っていいと思います。日本の環境政策との比較もしておられます。一方井先生は、環境省に長らくお勤めで、環境政策の現場にいらっしゃったということですので、その観点からお話いただくということです。寺西先生は、雑誌『環境と公害』を主宰されておまして、あるべき環境政策という観点から、さまざまな現実の政策に対する批判的な分析もされてこられたので、そういう観点から現在の状況をどうぞ覧になっているか、そういう話もしていただきたいと思います。

最初、飯尾先生に1時間程度ということで基調報告をお願いして、3人のパネリストの方にそれぞれ20分ずつコメントを兼ねたご意見をいただくというかたちで、あとは会場の皆さんと一緒に討議を進めていきたいと思います。

それでは早速、飯尾先生から「政治主導はなぜ難しいのか：政権交代と統治構造改革」と題してよろしくお願いします。